

ようこそ甲賀市へ。

目次

信楽焼	3
甲賀忍者	4
東海道宿場町	5
見る〔忍者・名所・寺社・資料館など〕	6~12
遊ぶ〔キャンプ・ハイキング・公園など〕	13~15
愛でる〔景勝・花木など〕	16~17
買う〔焼き物・グルメ・物産など〕	18~22
食べる〔郷土料理・和食・洋食・カフェなど〕	23~25
泊まる〔温泉・ホテル・旅館など〕	26~27
イベントガイド	28
モデルコース・観光ボランティアガイド	29
観光マップ	30~31

時代をさかのぼること、約1,300年……。
 天平時代、聖武天皇が紫香楽宮を造営。
 鎌倉時代中頃、信楽焼が興る。
 戦国時代、信長、秀吉、家康の天下取りに甲賀忍者が活躍。
 やがて、家康が江戸幕府を開き、東海道が整備される。
 水口城が築かれ、水口宿と土山宿がにぎわう。
 ——そして、現代。
 長い時代の中で、幾度のドラマを重ねてきた「甲賀」。
 多くの歴史遺産が訪れる人を古代へ、
 中世へ連れていく……。



さあ、あなたも
 タイムトリップへ。

信楽焼・アート散策

狸の置物で知られる信楽焼。
 陶器の里—甲賀市信楽町では
 町じゅうで愛らしい狸が出迎えてくれます。
 軒を連ねるショップ、
 作陶体験、窯元めぐりなど
 アートな一日が待っています。

長い歴史と文化に支えられて

信楽焼の歴史をさかのぼると天平時代に聖武天皇が紫香楽宮を造るにあたって瓦などを焼いたのが始まりといわれています。以来、良質の土が出たことからその長い歴史と文化に支えられて、*日本六古窯のひとつに数えられています。

鎌倉時代には水がめや壺が作られ、室町・安土桃山時代には茶道具の生産が盛んとなりました。江戸時代には登り窯によってさまざまな生活用品が作られ、大正時代から戦前までは火鉢、以後は植木鉢、花瓶などが主流でした。

そもそも狸の置物は江戸時代に造られていたという記録が残っていますが、昭和26年に旗を持たせた狸の置物をずらりと並べて天皇をお迎えしたところ、天皇が歌を詠まれたことから全国的に知られるようになりました。以来、福を

呼ぶ縁起物として信楽焼=狸の置物が定着したようです。

現在では暮らしの器、置物、花器などさまざまな作品が創られている中で、若手作家による感性が加わり、新しい作風が生まれつつあります。

土の持ち味を生かした作風

信楽焼の特徴はあたたかみのある赤茶色と肌触り。焼成すると土の中の鉄分が赤く発色するので表面は赤茶色のような色になります。釉薬をかけずに焼きますが、灰が溶けて自然に釉薬をかけたようになります(自然釉またはビードロ釉といえます)。そして薪の灰に埋まる部分が黒褐色になる「焦げ」も特徴です。

信楽特有の土の持ち味を生かした、素朴であたたかい、存在感のあるアートな作品。これが甲賀市の代表する伝統技術です。

※ 鎌倉時代以前より継続している古い窯の中で後に大きな産地となった代表的な六つの窯、瀬戸・常滑・越前・信楽・丹波・備前を指す。



古代



△滋賀県立陶芸の森



△紫香楽宮跡